

## 知事臨時記者会見

■日時 令和3年7月7日（水）16:30～16:50

■会場 応接室

### 【発表事項】

#### 1 新型コロナウイルス感染症への対応について

はじめに、福島県全体の感染状況について指標を使ってお話しします。

五つの指標、七つの区分のうち、病床の使用率はステージ3、それ以外の六つの区分については、ステージ2以下という状況にあります。

全体としては、ステージ2相当の状況だと考えております。

ただ、ステージ2相当といっても、例えば、病床の使用率、療養者数、新規陽性者数がそれぞれ1週間前に比べて悪化しているというのが県全体の傾向です。

そして、問題は南相馬市です。南相馬市は6月1日から6月24日まで、感染者ゼロが継続していました。非常に安定した状況にありました。

しかし、その後徐々に感染者が出始め、この1週間においては6名、7名、10名と急拡大をしています。そして、この感染急拡大の要因を分析しますと、飲食店由来のものが50%、こういったものが職場や知人間で広がるという傾向があり、また感染経路不明も2割以上あるという状況にあります。

このような南相馬市の厳しい感染状況を踏まえ、本日午前中に南相馬市の門馬市長から、県として感染対策をより強化して欲しいという要請を頂きました。それを受けて、先ほど、南相馬市に対する感染症集中対策を決定しました。

大きな内容は2点です。

まず、南相馬市民の皆さんへのお願いですが、7月9日金曜日から7月31日土曜日、今月いっぱいまで、不要不急の外出の自粛をお願いします。

そして、同じ期間、南相馬市の接待を伴う飲食店、あるいはお酒を提供する飲食店においては、時間短縮の要請を行います。その際、御協力を頂いた場合には、協力金を支給します。

また、各種の学校、高齢者施設等においても、感染対策の徹底をお願いしたいと思います。

以上、南相馬市に対する集中対策を発動する訳ですが、先ほど申し上げたとおり、先月、6月24日までは南相馬市は感染者数ゼロでした。ところが、ここ1週間、2週間で急激に悪化して、県独自の集中対策、時間短縮要請、あるいは市民の皆さんへの外出自粛要請をお願いせざるを得ないという状況になっています。

このように、新型コロナウイルスの感染症対策は一度気を緩めてしまうと、一気に悪化して、強い制限・制約をお願いせざるを得ないという状況になります。

こういったことを、福島県民の皆さん全員、あるいは事業者の皆さんにも是非認識していただいて、引き続き、基本的な感染症対策を、お一人お一人、あるいは全ての事業者さんで徹底していただくよう改めてお願いします。

### 【質問事項】

#### 1 新型コロナウイルス感染症への対応について

##### 【記者】

南相馬市については、急激に（新規陽性者数を示すグラフが）上がっていますが、会津若松市の時は、まん延防止等重点措置を国に要請しました。それについて、現在の考え（南相馬市へまん延防止等重点措置の適用を要請するのか）を伺います。

## 【知事】

まず、先般、会津若松市において急激に感染が拡大した時に、政府に対してまん延防止等重点措置を要請しております。あの時は、県全体の指標が非常に悪化しており、ステージ3相当、その後、ステージ3という状況まで悪化していました。病床の使用率、重症者の病床使用率、療養者数、新規陽性者数等がステージ4レベルまで上がっているような非常に厳しい状況でありました。現在は、ステージ2相当というのが県全体の状況であります。

また、先ほど南相馬市の新規陽性者数の話をしましたが、確かに南相馬市の「10万人当たりの1週間の新規陽性者数」は、ステージ4を超えている状況であります。県全体ではステージ2相当です。

まん延防止等重点措置は、ステージ3相当以上で適用するという基本的な考え方がありますので、現在は、南相馬市に対して県の独自措置でしっかり抑え込んでいく段階であり、まだ政府に対してまん延防止等重点措置をお願いする段階にはないと考えております。

## 2 県民限定の宿泊助成について

## 【記者】

これまで、知事からは「今後、感染が拡大するという場面になれば、先手先手で対応を打つ」というお話がありましたが、「県民割プラス」の延期についても、その一環かと思います。その狙いと今後の見通しについて伺います。

## 【知事】

本日閉会しました6月県議会において、「県民割プラス」の予算を計上させていただき、先ほど議決を頂いたところであります。

この「県民割プラスですが、非常に重要な効果を持っております。現在、観光業に関わる方々は、非常に苦しい状況にあります。昨年から一年余り、この新型感染症の状況が続いており、本当にお客さんがおられない、厳しい状況が続いている中で、Go toトラベル、つまり全国的な人流を起こすということは現時点ではあり得ませんが、同じ県内で県民同士が相互に行き交うということであれば、一定の感染防止対策をしっかりと行いながら、一方で観光振興に資するという、その両立がある程度は可能だろうということで、今回、この県民割プラスの予算を組みました。

特に、昨年の県民割と比べますと、下限のところをより低くし、また上限も高くして、多くの旅館やホテルに効果が行き渡るような補助制度にし、お土産等に使える2,000円のクーポン券も使っていただけるようにしました。この制度がスタートすれば、県民の皆さんが県内の旅館やホテルなど観光業の皆さんを応援するために、自分も感染対策しながら、是非参加しようと思っただけのようなスキームを用意しているところです。

また、つい先日までは、こちら（県民割プラス）を近日中にスタートするというところで議会にも説明をしておりました。ただ、先ほどお話ししましたとおり、この1週間で急速に状況が悪化しておりまして、やはり南相馬市に時間短縮要請をかけざるを得ない、県全体の指標もステージ2相当であり、悪化の傾向が見られます。また、クラスターの数も、既に7月の現時点において6月のクラスターの数を上回るという状況にありますので、やはり今は感染拡大防止に、よりウエイトを置くべきであろうということで、一旦見合わせていただくことにしたところです。

## 3 新型コロナウイルス感染症への対応について

## 【記者】

ワクチンの今後における供給量の見通しがつかない中で、（ワクチン在庫の）多い市町村と少ない市町村間での融通について、県が仲介しようという話も進んでいると思いますが、中々全国

的にも難しい中で、県として、今後どのように工夫をしていくのかということについて、知事の考えを伺います。

【知事】

ワクチンの配分については、二つ大事なポイントがあると思います。

まず一点は、ワクチンの総供給量を、政府が責任を持って、各都道府県に対してきちんと増やしていくこと、そして、特に自治体の接種、市町村の懸命な取組を阻害しないこと。これが重要だと思います。この点は全都道府県知事が同じ思いであります。私自身、ここ数週間で市町村長さんと幾度も話をしておりますが、皆さんから本当に悲痛な叫びを聞いており、その思いを持って全国知事会に訴えているところです。しかし、現時点では、担当大臣等の話を聞いておりますと、当面、この総供給量が直ちに改善される状況にはないというのが現実だと思います。

二点目は、現在、福島県内に一定のワクチンが配分されています。それを県においてワクチンバンクという形で、できるだけ上手に調整し、今、足りなくて困っている自治体に対して、一定の備蓄のある自治体から借り受けて、それを一旦お貸しして、またいずれ戻していく、こういった形で、県内にあるワクチンという貴重な資源を、最大限有効活用していく取組を行っているところであります。

ただ問題は、今までの政府のワクチン供給は、基本的に人口比を基軸に実施されており、最近では、人口比以外の部分の供給が本県には無いという状況にあります。ワクチンバンクを活用するなど、県としてできるだけ努力はしますが、総供給量に限界がある中では、中々難しい部分があります。

したがって、政府が製薬会社等と積極的に交渉を行っていただく、あるいは都道府県間でも一定の備蓄状況の差というものが間違いなくあると思いますので、VRS（ワクチン接種記録システム）等で、より正確な情報を把握していただき、都道府県間の格差を埋めていただくということも、現在の総供給量の中で可能だと思っておりますので、こういった点も含めて、全国知事会を通じて（国へ）強く訴えていきたいと思っております。

【記者】

県内の感染状況、下げ止まりから悪化し、リバウンドの状況が続いていますが、2週間後にはオリンピックも控えています。

その中で、この感染状況をどう捉えているのかということと、今回は、南相馬市への対策ですが、今後、県内全域のより強い対策の実施について、知事の考えを伺います。

【知事】

まず、大切なことは、やはり県民の皆さん、あるいは事業者の皆さんお一人お一人の意識だと思っています。

5月には急速に状況が悪化し、最初は会津若松市、その次は、いわき市、そして結果的に県全域で非常事態宣言を出して、重点対策を講じざるを得ない状況となるなど、この1年数か月の中で最も悪い状況となり、ステージ3の水準まで達していたという現実があります。

ただ、非常事態宣言下で、県全域で時短要請をかけ、県民の皆さん全てに不要不急の外出自粛をお願いする中で、急激に状況が改善しました。その点からも、6月は重点対策を1か月間講じたことで、一定の成果が出たと考えています。

ただ、先月の後半ぐらいから徐々に下げ止まりの状況から、微増へと変化し、7月になって、それが明らかに拡大傾向に移っています。これはやはり基本的な感染対策を、気を緩めることなく徹底していただいているかどうかのポイントだと思います。

また、もう一点は、最近の悪化状況が首都圏の悪化にも連動していることです。

先月は首都圏においても、感染状況が比較的落ちついていました。福島県は首都圏との関わりが深い地域でもありますので、これまで、首都圏での感染が拡大すると、それにつられて感染状況が悪くなっていくという傾向がありましたが、今回も、やはりそこが連動しているのではない

かと考えています。

私自身が今、懸念しておりますのは、変異株です。福島県内における変異株は、アルファ株が多くなっています。

ただ、今、首都圏においては、デルタ株が非常に増えてきておりまして、今の時点では、デルタ株は（県内では）まだ確認されておりませんが、今後、このデルタ株が福島県においても出てきて、それが拡大する恐れがあるということを、是非、県民の皆さんにも頭に置いていただきたいと思います。

その上で、先ほど南相馬市だけでなく、全県（についての対策）はどうかというお話を頂きました。

それについては、やはり五つの指標と七つの区分がポイントになります。全県的な対応を行うに当たっては、この指標全体が、例えばステージ3、ステージ4のものが増えてくれば、強い対策を講じるということになります。私どもとしては、それをできるだけやりたくない、全県的な対策はしないで済ませたいという思いがあります。

したがって、今回も南相馬市という地域限定で、強く早く限定的に対策を講じることによって、なるべく早期にこれを鎮静化させる、それによって、全県的な広がりや病床のひっ迫度合いを早期に下げていくことを意図しております。

今後、仮に他の自治体が南相馬市と同様の状況となれば、その際にはその自治体に対しても、今回と同様の対応を早く打って、県全域の対策ではなく、極力、地域限定で鎮静化させる、収めていくというのが、当面の県の基本的な考え方です。

## 4 東京オリンピック・パラリンピックについて

### 【記者】

東京五輪について伺います。今、県内において、南相馬市で集中対策が出て、福島市や郡山市でかなり（感染者の）人数が増えているところで、クラスターも多発しています。

明日、観客を入れる、入れないなどについて、最終的な判断になるかと思いますが、現在の知事の考えを伺います。

### 【知事】

まず、東京オリンピック全体の、観客の在り方については、現在、首都圏においてとられているまん延防止等重点措置を11日以降にどうするのかという判断が、最も優先されると思います。

それを踏まえて、五者協議が行われ、東京オリンピックにおける観客の入れ方というものが決定していくと思います。福島県は、あづま球場が野球・ソフトボール7試合の会場になっていますので、それを注視していきたいと思います。

その上で、福島県内の状況ですが、こちらのグラフにあるとおり、南相馬市は残念ながらステージ4を超えるような悪化している状況にあります。一方、郡山市あるいは会場となる福島市は、ステージ3をある程度下回っている状況にあります。

したがって、現時点において、こういった地域において直ちにということは考えておりません。

ただ、先ほど申し上げたとおり、県全体の指標が徐々に悪くなっているという現実がありますし、南相馬市も、つい先日までは陽性者ゼロの更新が続いていたわけですので、やはり予断は許しません。繰り返しになりますが、一番大事なことは、お一人お一人、あるいは事業者の皆さんの基本的な感染対策の徹底ですので、オリンピックの有る無しにかかわらず、県民の皆さんの健康と命、あるいは地域経済を守るためにも、県民の皆さんに、基本的な感染対策をしっかりとっていただくよう、訴えていきたいと思っています。

また、併せて大事なことは、ワクチンの接種です。最近の感染者の年代を見ていただくと分かりますが、高齢者の方は、ほとんどおられません。また医療従事者のワクチンの効果も明確に出ていますので、先ほどのワクチン供給の話と重なりますが、政府においては、できる限り早期

にワクチン供給を自治体に行っていただきたいと思います。今、自治体では、市民、町民、村民の皆さんに打てる体制を、本当にしっかり整えており、早くやりたいという思いを、各市長さん、町長さん、村長さんをお持ちですので、そういった思いに政府としてしっかり応えていただくことを願っております。

(終了)